

中部中学校だより

きずな

令和4年9月28日発行
第8号
亀山市立中部中学校
亀山市田村町75番地
☎：82-2101
文責：三谷



「令和4年度 全国学力・学習状況調査」結果の報告

本年4月19日に、全国一斉に実施されました「令和4年度全国学力・学習状況調査」の結果、その分析から、中部中学校がこれからどのような取組をしていくのかお知らせします。

「全国学力・学習状況調査」は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることが主な目的です。（小学校6年生と中学校3年生が調査対象者です）今年度中学校では国語と数学と理科について調査が行われました。

1. 学力調査の平均正答率(%)について

教科		R3年度	全国との比較	R4年度	全国との比較
国語	中部中	59	▼5.6	67	▼2.0
	三重県	63.0			
	全国	64.6			
数学	中部中	56	▼1.2	48	▼3.4
	三重県	57.7			
	全国	57.2			
理科	中部中			46	▼3.3
	三重県			48.1	
	全国			49.3	

※▼はマイナスを示しています。

※全国ならびに三重県の数値（平均正答率）の公表は、小数第一位までとなっていますが、

本校のものは小数第一位を四捨五入した整数値となっています。

2. 全国的な傾向（文部科学省の発表）

【中学校国語】

○「書くこと」及び「情報の扱い方に関する事項」（学習指導要領に新設）に係る出題において、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことに課題が見られる。

- 「話すこと・聞くこと」に係る出題において、具体的な助言があればスピーチの表現を工夫することはできているが、話し方の工夫について自分で考えることに課題が見られる。

【中学校数学】

- 「データの活用」の領域において、多数回の試行によって得られる確率の意味の理解には改善の傾向が見られる。一方、学習指導要領において統計的内容が充実したことを踏まえ初めて出題した「箱ひげ図」からデータの分布の特徴を読み取ることに課題が見られる。
- 「関数」の領域において、日常的な事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに引き続き課題が見られる。

【中学校理科】

- 学習指導要領において科学的に探究する学習が重視されていることを踏まえ、探究の過程における検討や改善を問う設問について、他者の考えの妥当性を検討したり、実験の計画が適切か検討して改善したりすることに課題が見られた(分野:力の働き、天気の変化等)。
- 過去に課題が見られた実験の計画における条件の制御については、改善の状況が見られる。

3. 中部中学校の具体的状況と分析について

【国語】

- ・漢字の書き取りについては、全国平均を上回っている。
- ・問題の内容や条件を正確に読み取れず、引用部分をかきかっこでくることができない、文章をそのまま抜き出すことができない等の誤答が多い。
- ・話の進め方を問う問題で、どのように進めれば相手によく伝わるかについてよく理解できていない。

【数学】

- ・「データの活用」の領域において、多数回の試行によって得られる確率の意味の理解には改善の傾向が見られる。
- ・図形に関して、筋道を立てて説明することに課題が見られる。
- ・「関数」の領域において、日常的な事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに引き続き課題が見られる。

【理科】

- ・生物の生態についてさまざまな情報を関連付け、その理由を説明することが全国平均を上回っている。
- ・問題解決のための検討や改善を問う設問について、他者の考えの妥当性を検討したり、実験の計画が適切か検討して改善したりすることに課題が見られる。(力の働き、天気の変化)

4. 生徒質問紙調査に見られる特徴

【肯定的な回答の割合が全国や県と比べて高かった主な項目】 △は全国と比較してプラスを示す

- ・携帯電話・スマートフォンなどの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。
(本校75.1% 県69.0% 全国69.5%) △5.6
※ただし、「約束がない」17.3% (県19.9%、全国18.2%)
- ・将来の夢や目標を持っていますか。
(本校71.4% 県68.6% 全国67.3%) △4.1
- ・自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。
(本校92.5% 県83.9% 全国86.6%) △5.9
- ・今住んでいる地域の行事に参加していますか。
(本校51.3% 県46.8% 全国40.0%) △11.3

【肯定的な回答の割合が全国や県と比べて低かった主な項目】 ▼は全国と比較してマイナスを示す

- ・普段1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか。
(3時間以上 本校38.9% 県33.4% 全国29.5%) ▼9.4
- ・学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾等を含む)
(2時間以上 本校27% 県38.3% 全国44.9%) ▼17.9
- ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。
(本校37.3% 県43.4% 全国40.7%) ▼3.4
- ・学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。(インターネットなど)
(週3回以上 本校29.2% 県50.3% 全国37.2%) ▼8.0

みえスタディ・チェックの結果

「全国学力・学習状況調査」とは別に、毎年三重県が独自に実施し、県内の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、授業や家庭学習の進め方の改善を図ることが主な目的です。(小学校4、5年生と中学校1、2年生が調査対象者です)。

1年生の平均正答率 (%)

	三重県	中部中	県との差
国語	68.7	67.6	▼1.1
数学	62.0	58.2	▼3.8
理科	59.3	56.7	▼2.6

2年生の平均正答率 (%)

	三重県	中部中	県との差
国語	55.1	50.6	▼4.5
数学	51.9	45.3	▼6.6
理科	42.6	38.6	▼4.0

<今後の授業や学習の取り組み方について>

【国語】

- ・自分の考えを支える根拠として資料を適切に引用する活動を充実する。
- ・文法…練習問題に繰り返し取り組む。
- ・書くこと…授業の中で思考を促し、文章を書く機会を増やす。
- ・語彙を増やすため、学校図書館を積極的に活用するなどし、多様なジャンルの本を読むことをすすめる。
- ・書くことへの苦手意識を減らすために、ふり返りの徹底、單元ごとに条件をつけて作文をすることを続けていく。

【数学】

- ・問題解決の方法に焦点を当て、表、式、グラフなどの「用いるもの」と、それらを問題解決するためにどう用いたかといった「用い方」を明確にして問題解決の方法を数学的に説明する活動を充実する。
- ・発表の機会を授業の中で作っていく(グループ・ペア活動等で)。
- ・道のり、時間、速さの計算練習を入れていく。
- ・授業内で、「考える→まとめる→発表する」の流れを多く取り入れる。
- ・意見の共有のために、グループ学習や教えあい学習を取り入れる。

【理科】

- ・実験の計画を立てさせる活動を充実する。
- ・情報を整理・分析してレポートを書く取り組みを充実する。
- ・演示や映像教材に頼りきりにならず、実際に実験操作する機会を確保する。
- ・グラフの読み取りに力を入れる。
- ・実験レポートへの取り組み→実験計画や考察を充実させる。
- ・無回答率を少しでも下げるため、間違いを認めていく雰囲気づくりを授業でつくっていく。生徒が積極的に考え、例えば、話し合い活動を充実させるなど、様々な意見が出るように工夫する。
- ・文章を読み、そこからイメージを持たせるため、実物を用いたり、視覚教材を用いたりする。文章で表されている実験操作等も、結果だけではなく、その過程のイメージを持たせる。

◆「全国学力・学習状況調査」も「みえスタディ・チェック」も普段見慣れない出題形式のように感じる生徒が多いように思われます。しかし、出題内容はすでに習った内容ばかりですので、後で正答を確認して、復習してみるとよくわかると思います。問題文をよく読み、「答えるべきこと」と「答え方の条件」、「問題中に示されているいくつかの重要な情報」等を適切に組み合わせることで解答することが大切です。過去に実施された問題に取り組んでみるのも良い方法と思います。

◇明日からの第3回定期テストは、最近習ったばかりの問題が多いので、答えやすいかもしれませんが、しかし、各教科のテスト問題に出てくる「書いて説明する解答」などに注目して、正しい答え方ができるように取り組むことも、「学力調査」や「スタディ・チェック」で求められる学力につながる大事な学習となります。

◆現代はスマホなどの普及により、手元で手軽に調べものをしたり、ギリギリ意味の通る短文で他人と連絡を取り合ったりできる時代です。この便利さに慣れすぎることなく、辞書や事典等を使って調べものしたり、主語述語がはっきりした文や5W1Hを使ったわかりやすい文章を書いたり話したり、本や新聞等を読む習慣をつけるなど、家庭で普段から取り組めることがたくさんあります。できることから始めてみましょう。